

2010年12月15日 第16号 発行:日本リザルツ お問い合わせ(担当:三浦)TEL:03-5280-2888 FAX:03-5280-2889 E-mail:info@results.jp

1. 世界エイズ・結核・マラリア対策基金に対する新規拠出 決定

米国ニューヨークで開かれた国連ミレニアム開発目標サミット(MDGs レビューサミット)最終日の9月22日、菅総理は、(MDGs の達成に向けて)「世界基金が果してきた役割は大きく、敬意を表したい」と述べるとともに、日本政府として世界基金に対し当面最大8億ドルの拠出を発表した。10月4-5日に行われた世界基金第三次増資会合(2011年-2013年における各国の拠出額を提示する会合)に先駆けた表明であった。世界基金は2002年の沖縄サミットをきっかけに設立され、以来、日本は総額約13億ドルを支援する主要ドナー国の一である。菅総理は、今回のスピーチで、MDGs の8目標の中でも特に進捗が遅れている保健/教育分野を重視し、エイズ・結核・マラリアの「三大感染症」をはじめとする保健分野では5年間で総額50億ドルの支援を行うとした。私たちはこの表明に拍手を送った。しかし、途上国の資金ニーズは依然として高く、支援拡大が必要な状況が続いている上、我が国の経済規模に見合った貢献であるかという点についてはまだ十分とは言えない。そもそも、世界基金が必要としている金額は、2011-13年(3年間)で200億ドル。フェアシェアで算出すれば、日本の負担額は約18億ドルとなる。我が国の国力にあった拠出を行うためには、ODA全体の増額を踏まえた議論が必要となる。いずれにせよ、世界基金をはじめ、保健システムの強化、そしてMDGs の達成に向けて日本リザルツ(RJ)は各方面へ一層働きかけを行っていく。

2. その他の活動報告

◆動く→動かす スタンド・アップ キャンペーン

サミット直前の9月17日(金)-19日(日)の3日間、スタンド・アップ(動く→動かす 主催)が全国で行われた。このイベントは2006年に始まった世界同時アクションで、一人ひとりが立ち上がって(STAND UP)、MDGs の達成と貧困をなくしたいという意志を示し、各国の代表者たちに約束の実現を求めるというものである。今年、日本では、47都道府県 562件、1万8240人が参加。私たちRJも全国会議員事務所をまわり、MDGs の目標達成に向けて働きかけ、特に日本の世界基金への継続的支援の必要性を訴えた。しかし、MDGs の認知度は低く、このままでは既存のものに乗っかるだけの日和見外交の終焉はない。

2015年のMDGs レビューサミットに向けて、日本独自の外交戦略の見直しが必要である。とにかく地道な活動が花開くと信じ、これからも世界の人々と共に「貧困を終わらせたい」という意志を発信していきたい。

◆MDGs レビューサミット(ニューヨーク)

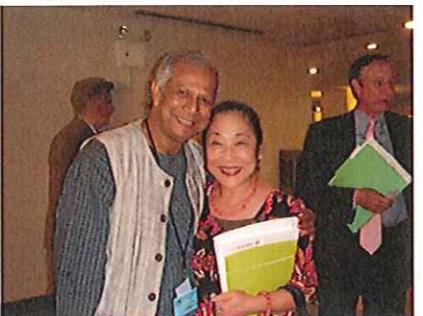
9月20日-22日までニューヨーク国連本部で開催されたMDGs レビューサミットへ、白須事務局長がストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)の代表理事として参加した。保健関連サイドイベントは各国政府と国連政府代表部、国際機関等が主催し、興味深いテーマを扱っていた。各国による目標達成のための取組みや成果、国際機関の活動や貢献等が紹介され、2015年の目標達成に向けて各国・機関がMDGs 関連活動を継続して行うことが確認された。また、日本も共催国となって開催されたサイドイベント、“Innovative Financing for MDGs (MDGs のための革新的資金)”へ出席した前原外務大臣によるスピーチは、各国からの高い評価を得た。2015年まで残り5年となった現在、MDGs 目標に向け更なる達成努力が重要であり、結核対策に関しても、日本がストップ結核ジャパンアクションプランに挙げられている世界の結核の年間死者10%削減に貢献する必要性を再認識した。



*スタンド・アップするリザルツのスタッフ



*ストップ結核大使のクレイグ・ディビット氏(右)と



*RJ 名誉顧問のムhammad・ユヌス博士(左)と



*ストップ TB チヨコをメリンドラ・ゲイツに手渡す白須
事務局長

◆第19回ストップ結核パートナーシップ調整理事会（ヨハネスブルグ）

10月14-15日、南アのヨハネスブルグで第19回ストップ結核パートナーシップ調整理事会が開催され、RJからは白須が参加した。テーマは、多剤耐性結核、世界基金、世界抗結核基金(GDF)、市民社会との協調、ワクチンの開発等であった。また同時に世界保健機関(WHO)から2006年-2015年計画を踏まえての「ストップ結核グローバルプラン 2011-2015」が発表された(ストップ結核パートナーシップのHPに掲載*)。RJは調整理事会議長のリファット・アツン氏(世界基金)、新副議長のベシナ・クマル氏(インド、保健コンサルタント)らと交流を深め、クマル氏を1月15日大阪で行われる国際結核セミナーに招待した。次回は米国ワシントンDCで4月に開催される予定。

*<http://www.stoptb.org/global/plan/>



*南アフリカ共和国保健大臣らと

◆リザルツ戦略会議とアクショングループ世界会合（ロンドン）

10月24日終日、リザルツ戦略会議がロンドンで開催された(RJからは白須、狩野が参加)。米国リザルツ(REF)も含めた各国関係者約20名が将来の方向性を議論した。結論は、リザルツ・インターナショナルの創設を検討していくことになった。加えて25日から27日までの3日間、ACTIONパートナーズ会合(世界の結核アドボカシーグループ)に約40名が集まり、世界基金、二国間援助の達成状況、ストップ結核グローバルプラン 2011-2015、ゲイツ財団の方向性等を議論した。RJからは、世界基金への約束(8億ドル)に加えて、日本のODAの今後の重点が国際保健(50億ドル)と教育(35億ドル)になったこと、9月に開かれたMDGsレビュー・サミットにおけるストップ結核パートナーシップ関係のイベントが小規模であったこと、これからの二ヶ月は国際連帯税関係に期待がかかること等について発表した。



*会合の様子。メモをとる白須事務局長

◆グローバル・フォーラム 2010（神戸）

11月15日-17日の3日間、神戸で開かれた「都市化と保健」を考えるグローバル・フォーラム(WHO神戸センター(ジェイコブ・クマレサン所長)主催)にRJから三浦が参加。都市化によってたらされた恩恵とその裏腹である様々な問題を、世界100カ国以上から集まった知事や市長といった政治家、そして研究者、メディア、NGOからの代表者が共に議論した。人々の健康は居住場所によって差異が生まれる。総体的に健康は改善されたとは言え、同時にどの国にも健康格差が生じているのが現状である。都内においてもそのような傾向が近年見られるようになつたが、これまで私たちが訪れたフィリピン、ハイチ、発展途上の国々では顕著である。RJは、感染症と都市について考える分科

会において、大阪のあいりん地区における結核罹患率等を例に、都市部の結核問題と日本の技術について説明をした。セッション後、検査技術等の日本の知見や経験を是非生かして欲しいとの意見が多数あった。最終的に、都市における健康とその公平性を高めていくことを謳った行動宣言がまとめられ、これは、各国政府、自治体、市民社会とWHO、UN-HABITAT および国連諸機関への提言となっている。

マーガレット・チャン WHO 事務局長からの「健康向上に向けたあらゆる協調が必要である」とのメッセージで会が締めくられた。リーダー達の政治力の發揮に期待するとともに、官民連携の必要性を改めて感じる会となった。

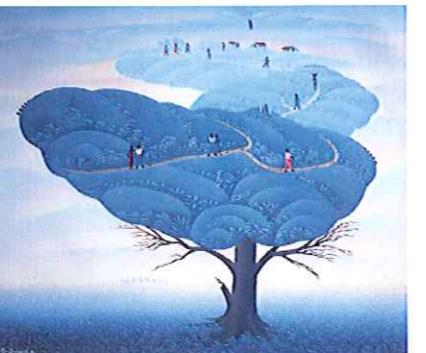


*開会式で挨拶をする矢田神戸市長

◆ハイチ絵画展 ~カリブ海の詩情と芸術~ @どちぎ蔵の街美術館 (2010年10月9日(土)~12月5日(日))

カリブ海に浮かぶハイチはもともと素朴で、自然を愛する人々によって素晴らしいハイチ芸術を生んだ。アンドレ・マルローが「最高の絵描き民族」と評価し、世界的に評価の高いハイチ絵画は、今年の大地震により壊滅的な被害を受けてしまった。今、その修復が少しずつ始められている。この展覧会は、ハイチの被災者とハイチ絵画の修復、アーティストたちへの支援を目的として開催された。小学生を対象にしたワークショップ、「ハイチ絵画の魅力」、「写真家が見つけたハイチ」等の講演会も催され、アートを通してハイチという国を身近に感じることができる。蔵の街美術館は素朴で美しい美術館。そこで手に届くほど近くで見る美しい絵画は、人々に幻想的なハイチへトリップしている気分を味わわせてくれる。現在、RJ も協力して、来夏に国連本部での同展覧会開催実現に向けて準備を進めている。

*関連情報は別紙「ハイチ特集」にてご確認ください。



*「ラブ・ツリー」 / ギ=ジョセフ
©株式会社 三河屋奥右衛門

◆世界結核肺疾患大会 (ベルリン)

11月11日-15日、世界結核肺疾患大会がベルリンで開催された(RJ からは狩野、佐藤が出席)。この大会は国際結核肺疾患予防連合(IUATLD)が主催し、結核やその他肺疾患にかかる医師等の医療専門家や研究者の出席を中心に毎年開催されている。1920 年以来の歴史を持つ会合であり、今回は第 41 回目。1973 年には東京で開催。今年度は世界 120カ国、2500 人が集まった。

様々なセッションが行われる中、私たちは、まず REF 主催の南北協力ワークショップに参加した。英国結核議員連盟事務局主催のワークショップでは、日本のストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長である梅村聰参議院議員からのメッセージを佐藤が代読。また日本の結核支援紹介ワークショップでは JICA の瀬古氏、結核研究所(RIT)の下内副所長、そして狩野がそれぞれプレゼンテーションを行い、各国出席者との活発な質疑応答が行われた。大会 2 日目には、RIT の石川所長主催のコミュニティーDOTS・ワークショップが開催された。各國担当者が DOTS の実施状況等を発表し、狩野は日本における元結核患者のアドボカシー活動の紹介とその意義についてプレゼンテーションを行った。冒頭では、これまで亡くなった患者さんに対し、参加者全員で黙とうを捧げた。

今回の会場は、ベルリン中心部からは少し離れた静かな街並みの中にある ICC ベルリン。その会場正面、ともすると見落としてしまいそうになるが、21 年前に東西冷戦終結の象徴ともなったベルリンの壁の一部が、ベルリン市の象徴である熊とともにモニュメントとしてひっそりと置かれ、静かにその歴史を伝えている。



*梅村議員のメッセージを読み上げる RJ 佐藤



*ACTION のブースで訪問者に説明する RJ 狩野

3. ワールドニュース

◆結核の診断が 100 分で

12月8日にWHOと革新的新診断法基金(FIND)等がジュネーブで共同記者会見を行い、簡易結核診断手法の発表を行った。現在は、3ヶ月と時間がかかるものが約100分になるとのことである。最新のDNA技術を用いて検査所の外でも利用でき、完全自動化されている上、安全性も確保されている。共同開発者であるFINDは製造者(Cepheid社)と交渉し、結核が蔓延する低中所得国には、市場価格の75%引きで販売するとしている(詳しくは、FINDのHPに掲載のプレス・リリースを参照*)。

*<http://www.finndiagnostics.org/media/press/101208.html>



*記者会見の様子。マリオ・ラビリオーネ WHO ストップ
結核部長(右)とヨルジオ・ロッシーニョ FIND CEO
(左) ©WHO

4. パートナー / インターン 船橋亜希子 ~リザルツの活動に参加して~

私は11月よりインターンとして日本リザルツの活動に参加させて頂いております。以前からマイクロクレジットをはじめとする貧困対策に関心があり、リザルツに、「何か自分にできることはないか」とメールを書いたことがきっかけです。今は「ストップ結核グローバルプラン 2011-2015」の翻訳作業等のお手伝いをしていますが、この期間を通じて結核についての理解を新たにすることとなりました。特に、日本における結核感染者が他の先進国と比較して多いという事実には驚きました。おそらく多くの日本人が知らないでしょう。そのような現実を伝えていく活動を地道に行なうことが非常に重要だと思います。その結果少しでも多くの方々が関心を持って下さるよう、お手伝いを続けて行きます。



*船橋亜希子さん

5. イベント／国際会議情報 ~ぜひご参加ください！~

<イベント>

○大地震被災1周年 ハイチアート展覧会～アートが命を繋ぐ～ ※詳細は別紙「ハイチ特集」にてご確認ください。

1月11日(火) 12:00～16:30、12日(水) 9:30～16:00 @憲政記念館、東京

○ハイチ募金 ※詳細は別紙「ハイチ特集」にてご確認ください。

1月12日(水) 12:00～13:00 @三崎町交差点 ※2月10日(木)、3月11日(金)、4月12日(火)も行います。

○第2回大阪国際結核シンポジウム

1月15日(土) 9:00～17:30(受付8:30) @関西大学 高槻ミューズキャンパス ミューズホール ※参加費無料

○第16回国際結核セミナー・世界結核デー記念フォーラム / 平成22年度全国結核対策推進会議

3月3日(木)、4日(金) @ヤクルトホール、東京

<国際会議 他>

○世界経済フォーラム

1月26日～30日 @ダボス、スイス

○3月8日 国際女性の日

○3月22日 世界水の日

○3月24日 世界結核デー

今年も皆さまに支えていただき一年でした。
心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。
2011年もよろしくお願ひいたします。

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本その他、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、メキシコ、フランス等、各国で活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策等において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ顔の見える援助政策について政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、米国国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者のジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領のネルソン・マンデラ氏等世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。

～ご寄付／ご入会をお願いしています。～

日本リザルツの活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。独立した立場で自由な政策提言を行うためには、幅広い民間(個人・企業)からのご支援が必要となります。皆さまからのご協力を心からお願いします。

2010年12月15日～17日@東京

「国際連帯税を実現するための国際シンポジウム」&
「開発資金のための連帯税に関するリーディング・グループ」



<2010/12/15 「連帯と希望：国際連帯税を実現するための国際シンポジウム」@日本ベクトン・ディッキンソン株式会社>



*会場の様子



*挨拶をする林芳正参議院議員
(国際連帯税創設を求める議員連盟 会長)



*挨拶をする外務省地球規模課題総括課長の松浦博司氏



*プレゼンに耳を傾ける参加者



*コミュニケーションを作成する様子



*コミュニケーションを読み上げるラクシミ・ヴァイディヤナ・サン氏(国際公務労連)と成田好孝氏



*記者会見の様子



*フィリップ・ドゥスト=ブラジ国連事務次長にプレゼントを渡す白須事務局長

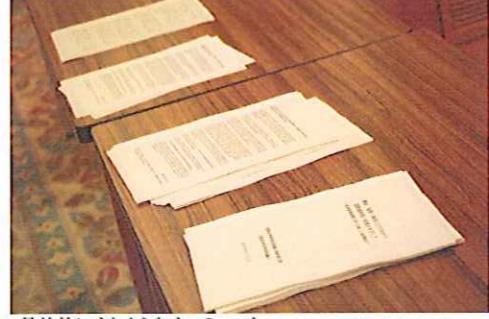
<2010/12/16-17 「開発資金のための連帯税に関するリーディング・グループ」@三田共用会議所>



*会場の様子



*NGO代表として挨拶をする田中徹二氏(右)と、次回リーディング・グループ議長国マリの外務大臣(左)



*最終的にまとめられたコミュニケ



*前原外務大臣と談笑する白須事務局長

◎日本の国際連帯税をめぐっての動き(2010年 8-12月)

8月25日、国際連帯税創設を求める議員連盟の林芳正会長代行、齊藤つよし事務局長、日本リザルツ(RJ)白須事務局長と田中徹ニオルタモンド代表(RJ 理事)、横浜市大金子文夫教授が岡田外務大臣を訪問し、国際連帯税推進協議会の報告書(ドラフト)を手交するとともに国際連帯税実現への申し入れを行い、大臣からは積極的な発言があった。

9月3日、国際連帯税推進協議会(通称:寺島委員会、2009年創設、月1回の頻度で開催、白須はNGO委員)で最終報告書が承認された。RJは航空券税とUNITAID(国際医薬品購入ファシリティ)の章を担当した。主な提言は、国際通貨取引税の実現にむけて国際会議の場で議題として採り上げること、日本が次年度に航空券税の実現を図ることである。

9月22日、国連MDGsレビュー・サミットの革新的資金メカニズムサイドイベント(日本・フランス・ベルギー共催)で前原外務大臣が12月の第8回総会開催にむけて積極的にこのテーマに取り組んでいくことを宣言した。白須および米国リザルツからも多数が出席した。

9月26日、東京国際連帯税フォーラムが寺島報告書のお披露目も兼ねて、東京の東洋大学で行われ、NGO、国会議員、大学関係者、メディアなど100名以上が参加した。白須は9月22日の報告を行い、航空券税導入については菅首相に会い政治的決断を促すべきと主張した。

10月18日、齊藤つよし議連事務局長、田中氏らとともに全日空幹部に航空券税の説明に伺った。フランスの例をあげ、全ての航空会社に等しくかかる税なので日本の航空会社が競争上不利になることはないなど丁寧に説明を行った(エアフランスは航空券税実施後、利用客が5.9%増えた(2006年9月前年同月比))。全日空からは、国民・顧客の合意が必要で合意があれば導入の可能性もという話があった。

11月8日、国際連帯税創設を求める議員連盟総会が開催された。アシスト・RJのメンバーが国会議員事務所全てを回り、議連への加盟をお願いしたところ加盟議員数は58名(新規16名)になり、林芳正議員が正式に会長に就任し、齊藤つよし議員が幹事長、西村智奈美議員が事務局長という人事が決まった。またRJはフランスNGOと協力し、国連事務次長(革新的資金メカニズム担当)のフィリップ・ドスト=ブラジ氏から林会長あての要請レターの手交が実現した。

11月19日、齊藤議員、横浜市大上村准教授、田中氏、およびRJ松永が前原外務大臣に面会し、報告書を提出するとともに、再度、通貨取引税と航空券税導入の申し入れを行った。

12月15日、日本BD社会議室で「連帯と希望:国際連帯税を実現するための国際シンポジウム」が国際連帯税共同キャンペーン実行委員会(RJは特別協賛)主催で行われた。100名を超える、NGO、国会議員、大学関係者、国際機関、メディアおよび一般市民が参加し、海外ゲストとして、フランス外務省リーディンググループ事務局ジュリアン・メモン氏(クリスチャン・マッセ局長代理)、デビッド・ヒルマン氏(英国、スタンプアウト・ポバティ)、リーベン・デニス氏(ベルギー、ブルッセル自由大学教授)、フィリップ・ドスト=ブラジ氏(国連事務次長)、パトリック・ベルトラン氏(フランス、国際保健NGO、ACTION

グループ)などが講演・発表を行った。また国内からは、林芳正議員、外務省松浦博司課長、上村雄彦准教授、鈴木りえこ氏(ミレニアム・プロミス・ジャパン理事長)、長谷川真一氏(ILO 駐日代表)が発表を行った。大会終了時に、コミュニケが読み上げられ、満場の拍手により承認された。内容は、専門家委員会の提言にあるグローバル通貨取引税の 2011 年以降の国際議題化と航空券税の即時導入の二点である。

12 月 16、17 日の二日間、東京の三田共用会議所で開発のための革新的資金調達に関するリーディンググループ第 8 回総会が外務省主催で開催された。参加者は 200 名を超え、新たにアジアからスリランカ、ブータンを加えた 63 カ国、オブザーバーの 15 カ国、さらに国際機関、日本・各国の NGO が参加した。RJ は日本からの招待 NGO として出席した。開会の辞で議長国日本の前原外務大臣は、「国際開発連帶税については、我が国においても、引き続き税制調査会等政府内で検討を行っていく予定です。なお、国際的な議論と実施状況を踏まえつつ、税調における議論を通じ、国民の理解を増進し、国際開発連帶税に関する議論を促進していく考えです」との声明を読み上げた。

会議は、開会と閉会セッションをはさんで、保健、不正資金の流れ、教育、革新的資金メカニズム、気候変動、食料、海外送金の問題について順番に議論が進められた。

閉会の辞では、前原大臣からは、リーディンググループの革新的資金メカニズム専門家グループの調査報告書の結論を支持するという日本・フランス・ベルギー・スペイン・ノルウェー・ブラジル 6 カ国での 9 月の MDGs サミット時の宣言をふまえて、2011 年にかけて世論を形成し真剣に導入にむけて検討していくというスピーチがあった。

なお、2011 年 1 月からはアフリカのマリが議長国となり次回総会を主催、また 2011 年後半は、スペインが議長国に名乗りをあげた。前原大臣が議長をつとめる閉会セッションの冒頭で、15 日の国際シンポジウム決議を田中徹二氏が日本の NGO・市民社会代表として発表し、満場の拍手をうけた。

初日会議後のレセプションでは、国連事務次長のドスト=ブラジ氏が積極的に前原大臣に航空券税導入の説得を行い、白須も直接大臣に 1 対 1 で申し入れを行った。

この間に多数の新聞、ジャーナル、テレビの取材があり、国際連帶税についての報道が行われた。



*議員連盟から斎藤幹事長も参加



*シギー・タジー カンボジア経済財政省長官（写真左から二番目）



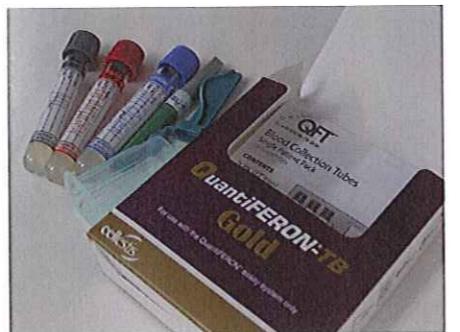
*議論に耳を傾ける参加者。左からジャック・プラム氏、リザルツの佐藤、デビッド・ヒルマン氏



*レセプションに参加した西村前外務大臣政務官

◎クォンティフェロン検査の導入に向けてのアドボカシー活動

2010年11月11日-15日、ベルリンで第41回世界結核肺疾患大会が開催され、約2,500名の結核関係者が世界中から参加した。RJは日本の結核支援メカニズムを高負担国にPRするワークショップ(REF主催)に参加するとともに、会場で展示ブース訪問を行った。とくに訪問者が途絶えなかったセレスチス社ブースを訪問し、クォンティフェロン検査の説明をうけ、血液検査一回分のサンプルもいただいた。



*クォンティフェロンのサンプル

なお、RJは外務大臣あてに2010年5月にこの件で要望書を提出し、それ以降も同内容の要望書を提出している。5月の外務大臣あてでは、以下を要望した。

日本のJICA緊急援助隊・自衛隊・NGOがハイチ・アフガニスタンなどの結核高蔓延国へ復興支援に行く機会が増えている。一方、ハイチを典型とした復興地域は、一般に感染症が蔓延している地域もある。とくに結核は空気感染で不十分な居住環境(例えばテント生活)・栄養不良など悪条件が重なると急速に蔓延し、被災者だけでなく日本からの援助関係者へ感染する可能性も大でその帰国後の国内での感染も懸念される。直接の関係は無いと思われるが、今年4月9日には自衛隊内で集団感染が発生したとの報道もあった。陸上自衛隊東部方面隊管内の駐屯地で計10人の隊員が感染し、他の隊員84人(約840人に健康診断実施)も血液検査で陽性反応が出た集団感染の事例である。

現在、比較的、簡便で正確な結核検査法として血液採取のみで検査を行うことができるクォンティフェロン検査法が欧米を中心に広がりつつあり、日本でも承認されている。これは、活動性結核および潜在性結核の診断補助として用いられており、ツベルクリン反応が72時間かかるのに対し、24時間以内で検査結果が得られるなどのメリットがある新しい結核診断方法である。特に結核感染率が高い環境で業務を行っている医療従事者への検査が推奨されている。

日本人の援助要員に対し、結核蔓延地域で活動する場合、結核感染対策として、協力開始時点(現地に入る前)および終了後(現地を離れて)2ヶ月時点でクォンティフェロン検査を受けさせることが徹底されるべきだ。結核は正確な診断が下されれば、比較的容易に治る感染症であることから、制度として検査・治療を援助要員全員に実施することを要望する。

更には、日本の高蔓延国を対象としたJICA結核対策プロジェクト等では、結核検査手法としてX線検査や喀痰塗抹検査が行われているが、これに加えてクォンティフェロン検査法を行うことを要望する。

私たちは、2011年のODA委員会において、ハイチなどで活動する援助関係者への検査導入について取り上げてもらうよう、議員の方々に要請している。また2月にはハイチにて外務省の補助金事業の一環として、STBJ、RJが結核調査事業を行う。その際には、団員が事前事後に血液検査を行う予定である。

◎ハイチ 特集

»須藤シスター「ハイチ 復興への祈り」を出版

2010年10月に、須藤シスターが30余年にわたるハイチ支援へかけた自分の思いを綴った著書「ハイチ 復興への祈り」が岩波書店から出版された。12月1日付の朝日新聞朝刊でも取り上げられている。須藤シスターがハイチに関わったきっかけから地震後の復興活動の様子、また、現地の人々の暮らしや願いが鮮明に語られている。途上国支援活動を行うNGO関係者にはもちろん、そうでない方々にも是非読んでいただきたい一冊である。

※定価¥500+送料でリザルツからも発送可能。



»ハイチ絵画展と佐藤文則写真展 in 佐野市

リザルツレターの中でも紹介させていただいたハイチ絵画展が、現在栃木県佐野市で開かれている。フォトジャーナリストの佐藤文則さんの写真展も同時開催(場所は下記参照)。復興支援の声が日本全国に広がることを心から期待したい。

一開催日時	2010年12月11日(土)~2011年1月23日(日) ※12月30日~1月1日、毎週木曜日は休館 9:00~20:00(入館は19:30まで/12月11日(土)のみ11:00~)
一開催場所	まちなか活性化ビル「佐野未来館」2階市民ギャラリー ※佐藤文則写真展は佐野駅前交流プラザ ぱるぽーと
一入場料	300円(チャリティとして)
一主催	ハイチ絵画芸術救援実行委員会
一問い合わせ	佐野市役所 文化振興課 / 電話 0283-61-1164

»大地震被災1周年 ハイチアート展覧会 ~アートが命を繋ぐ~

地震以前より貧困に苦しんできたハイチ。しかし国民の豊かな心は明るく希望に満ちたハイチ芸術を生み出した。アフリカの原住民であったハイチの人々の素朴で自然を好む優しい国民性は、ハイチ絵画に優しい人間愛と自然への親しみに満ちた詩的な抒情を醸し出している。ハイチの芸術やコーヒーを楽しみながら、ハイチへの支援について考えて頂ければ幸いである。

一開催日時	2011年1月11日(火)12:00~16:30 2011年1月12日(水) 9:30~16:00
一開催場所	憲政記念館 ※東京メトロ丸ノ内線・千代田線-国会议事堂前駅下車 2番出口から徒歩7分、有楽町線・半蔵門線・南北線-永田町駅下車 2番出口から徒歩5分
一入場料	無料(事前申込みの必要はありません。)
一主催	アートが命を繋ぐプロジェクトチーム(日本リザルツ 他)
一問い合わせ	(特活)日本リザルツ 担当:松永 / 電話 03-5280-2888

»ハイチ募金

1月12日で大地震から一周年を迎える。日本リザルツは、この一年間、毎月ハイチ復興への協力を求め街頭で募金活動を行い、2月には、この模様がNHKニュースやラジオでも取り上げられた。これまでの収益金は、リザルツの活動でご縁のあった、ハイチの病院ゲスキヨセンターのビルパップ所長をはじめ、現地のサナトリウム等で活動されている須藤シスター(医師)や援助活動にあたっているNGOへ直接届けさせていただいた。これからも地道な努力を続けていくことを誓う。私たちはハイチを忘れない。

一 次回以降の募金活動日程は以下の通り。是非皆さんもご参加ください。 日時:1月12日(水)、2月10日(木)、3月11日(金)、4月12日(火) 各 12:00~13:00 場所:三崎町交差点
一 下記口座でも、ハイチ支援募金を受け付けています。通信欄に「ハイチ」とお書きください。 ゆうちょ銀行 口座番号:00170-9-581459 加入者:日本リザルツ